

## 筆者の考えに対して、自分の考えを主張しよう

国語 第6学年

内灘町立鶴ヶ丘小学校

### 1 事例の概要

文章を正確に読み取ることが苦手で、問題に対して根拠が曖昧なまま答える児童が多い。また、書くことに対して消極的で、面倒くさくなって自分の考えをあまり書こうとしない。このような児童の実態から、文章を正確に読み取る力と書く力をつけることが喫緊の課題であるととらえた。

そこで、児童一人一人が文章と向き合う時間（自己学習）を設定し、課題に対する考えを書いて授業に臨ませた。また、話し合いをする前に児童の考えを書いた座席表を配付した。そうすることで、誰がどんな考えをもっているのか相互にわかるようにし、発言の出番をとらえやすくした。さらに、話し合いでは自分の考えの根拠を示して発言するように授業を進めた。

根拠のある発言をするためには、文章をしっかりと読み課題に対する考えをきちんと書いておく必要がある。児童は、根拠を探しつつ書くことで自分自身と対話をするようになった。

#### A-1 座席表

### 2 実践内容

#### (1) 単元目標

- ① 説明的文章を読み取って筆者の問いかける内容に関心を持ち、それに対する自分の考えをもととする。 (関心・意欲・態度)
- ② 文章の構成や表現から要旨をとらえるとともに、自分が生き物として生きることや筆者の考えについて自分なりの考えをもつことができる。 (読むこと)
- ③ 文章全体のおおまかな構成と、部分の役割を理解することができる。 (言語事項)

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

- ① 課題意識のもたせ方の工夫
  - ア 初発の感想を交流し、学習の計画を立てさせる。
  - イ 個々が文章と向き合う時間を設定し、課題について自分の考えをもって授業に臨ませる。
  - ウ 課題に対するそれぞれの考えを書いた座席表を分析して発言の出番を考えさせる。
- ② 学習過程や評価の工夫
  - ア 自己学習・グループ学習を効果的に取り入れ考えを深めさせる。
  - イ 文章構成や、児童の思考の流れや内容等がわかる構造的な板書を工夫する。
  - ウ 児童のノートには必ず朱書きを入れる。(意欲を喚起する朱・考える視点を与える朱)
- ③ 活用力向上のための工夫
  - ア 何が根拠なのか、何を根拠にするのか(文章や語句・友達の考えやノートを活用して・これまでの学習方法を活用して・これまでの学習内容を活用して等) 考えて発言させる。
  - イ 学習の流れや参考になる児童のノートに解説をつけて掲示する。

#### B-1 板書

#### B-2 掲示

### 3 指導の実際

#### (1) 第二次 <文章の内容をとらえよう>

- ① 初発の感想を交流し、学習課題を設定する

- ・ ロボットの犬と本物のイヌの違いは何か
  - ・ 生き物の特徴は何か
  - ・ 自分を大切にすることと他を大切にすることは同じか
  - など
- ② 活用を意識した支援
- ・ 何段落の何文目を根拠にしたのかを明確に発言させる。
  - ・ 主述や文末表現に着目して考えを持たせる。
  - ・ 段落の中の具体の部分よりも抽象の部分を中心に要旨をまとめさせる。
  - など

### C-1 指導案

#### (2) 第三次 <自分の考えを出し合おう>

- ① 目的意識、相手意識を明確にした言語活動を取り入れる
- ・ 筆者の考えに対して自分の考えを主張する。
  - ・ 筆者に手紙を書く。
- ② 活用を意識した支援
- ・ 二次で読み取ったキーワードを使って要約させる。
  - ・ 第一次から持ち続けてきた目的意識に沿って筆者への手紙を書かせる。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ① 課題意識のもたせ方の工夫
- ・ それぞれの考えを書き込んだ座席表を準備した。児童は、誰がどんな考えをもっているのか予め知ることができ、座席表を分析することで自分の発言の出番をとらえられるようになった。発言が不安な児童には、同じ考えをもっているのは誰かということを知る上で自信材料となった。また、座席表は丁寧にノートに貼り、宝物とした。
- ② 活用力を使って
- ア 既習の活用…これまでの説明文学習で身につけた力（文章の構成をつかむ・要旨をとらえ感想をもつ等）を定着させつつ、筆者の考えに対して自分の考えを主張することができた。
- イ 生活経験の活用…生活経験から根拠を導いた友達の発言から自分の日記を思い出し、自分自身もつながりの中で生きていると考えた児童がいた。また、「生き物として生きていることがすてきなことだとは思わない。」という意見に対し、両親から生まれこうして生きていることがすばらしいのだということを中心に主張し他児からの賛同を得た児童もいた。
- ③ 目的意識をもたせて
- ・ 筆者への手紙…児童には、しっかりと相手意識と目的意識があり真剣に書くことができた。そして筆者からの返事を手にした児童は、この上ない喜びで満ち溢れていた。（筆者は、全員の児童に対して返事を書いて下さった。）

### D-1 筆者からの返事

#### (2) 課題

- ① 5年生で学習した「要旨」と本単元で学習する「要約」の違いを明確に押さえることができなかった。各段落の要点をまとめる自己学習の時間を確保する必要があった。
- ② 要約文は、「キーワードを3つ入れて書く」等、ポイントを絞って書かせる必要があった。
- ③ 文章を正確に読むためのワークシートを工夫する。ワークシートは、自力解決のための材料となり、自分の考えの足跡を見ることができるよう内容にしていきたい。
- ④ 課題は、何がわかればよいのかストンと落ちるものになるように工夫する。本時は、<筆者の考えに対して「例えば～」を使って実生活とつなげて自分の考えを述べよう>等とすると具体的に発言しやすくなったのではないかな。